

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第97号 / 2020年12月18日発行

編集 / 医学研究科長

『継続性からみた消化管運動機能研究』

外科学講座(小児外科部門) 教授 八木 実

臨床系講座は皆、基本的に臓器別が基本となっているが、小児外科や小児科は患者さんの年代をスケールとした臨床講座である。その関係上、一般臨床では極めて広範囲の臓器やその失調について対応することになる。私は昭和 57 年、母校の医学部を卒業後、母校の外科学教室に入局した。1 年目は外科学の各部門を 2 か月毎にローテートして、2 年目は一般病院で外科学全般の研修をした。3 年目に小児外科に行くこととしたが、小児だけではあらゆる外科疾患の基本は十分には学べないとの指導の下に、消化器外科を中心に卒後 11 年まで半年あるいは 1 年ごとに母校の大学病院や県を超えた関連病院を目が回るほどのサイクルでローテートした。消化器外科と小児外科の研修比率は 2~3:1 であった。その中で、小児悪性腫瘍の分子生理学的な研究といった研究分野決定の意思表示もしたりしたが、恩師の教授から消化管運動機能の研究を行うようにとの指示をいただいた。小児科小児外科といった小児の分野では消化管機能研究は多くの大学で小児外科が行うことが多かった。Hirschsprung 病や直腸肛門奇形の術前術後の直腸肛門内圧測定から手ほどきを受け、食道閉鎖、食道狭窄、食道アカラシア、食道静脈瘤などの食道疾患術前術後の食道内圧測定へと守備範囲は

広がった。今ほど測定機器の精度は高くなかったので、測定法などに工夫することで十分臨床研究は可能であった。その一方で、わずかな間隙をぬっての母校医局帰局時には臨床修練中に、犬を用い筋電図電極埋め込みによる消化管再建後の小腸運動研究の実験の手伝いも日課となった。そこで、小腸運動の Phase1-4 を覚え、肉眼的な解析も習得するに至った。そうしているうちにフォーストランスデューサーが使えるようになり、実際の消化管の収縮曲線も記録できるようになり、生理学の教授と共同研究を開始し解析方法も肉眼的なものからデータレコーダーにも同時記録して周波数解析も行えるようになった。時も平成になり、消化器内科分野ではそのころ体表から胃の筋電図が拾えることが関心事となり、周波数解析の手法が使えることがわかり、今ほど、集積回路が発達していたわけではなかったもので、廃棄になったポリグラフを拾ってきて数学的に消化管運動記録に適した時定数やハイカットを設定し直し、自前で胃電図を記録開始した。市中病院に在籍することが多かったが、今ほど臨床研究に規制がなかったので、患者さんの同意のみいただいて成人、小児関係なく様々な病態の患者さんの胃電図を記録し、データレコーダーからデータをデジタル化して周波数解析し、ランニングスペクト

ルアレイ、スペクトルの平均加算、周波数の変動率など昼夜を問わず臨床の仕事以外では検討していた。そこでいろいろなことがわかり、論文もかなり作成できた。卒後12年目の平成5年春、有給助手として母校の医局に帰局し、腰を落ち着けて消化管運動機能研究を上部も下部も併せて発展させて行えるようになった。直腸肛門領域の消化管運動機能測定では平成8年ごろから直腸肛門内圧測定のみでは術後の排便機能評価には限界があると考え、uroflowmetryにヒントを得て、直腸肛門外科術後における下痢による便失禁を想定して、模擬便に加温生理食塩水を用いたfecoflowmetryの研究にも没頭でき、かなりの新知見を得て論文作成もできた。一方、食道運動機能も食道内圧検査のみでは、評価に限界あると考え、平成10年以降に世界で研究が本格

化した食道インピーダンス検査にも研究範囲を拡大した。その際、幸運にも平成15年に文部科学省短期在外研究員に選出され、オーストラリア王立アデレード病院消化器内科に留学し、Dent教授、Holloway教授の指導の下、食道インピーダンス測定と解析の基本を学ぶことができ、平成17年に久留米大学小児外科に縁あって赴任後も、教室の先生方にその精神と方法を継いでもらい、重症心身障碍児の食道運動機能を中心に数多くの論文作成につながった。来年春、定年を迎えるにあたり、振り返ってみると、実に転勤の多い外科医人生(久留米大学赴任時で20回目の転勤)であったが、大学、市中病院関係なく、モチベーションを維持できれば、消化管運動機能研究は可能であるということのはっきりといえると思う。

『こつこつと頑張る姿勢』

最後の方は、地域医療連携講座の仕事が目立っていましたが、私は元々、心臓・血管内科の医局員で、「疫学研究室」のチーフも兼任していました。この仕事の大半は、住民検診を行い、その中から得られるデータを分析して、論文化するという研究です。この研究は、「田主丸研究」と言って、昭和33年に始まった世界七か国共同研究の一環として行われた、日本で最も古いコホートの一つが田主丸町で行う住民検診でした。早いもので、最初の検診から60年が経過し、その約半分の30年余りを「疫学研究室」で過ごしました。この研究を通して、同じ科の大学院生を2人、他大学から医学研究科の博士課程に入られた管理栄養士を2人受け持ち、学位指導を行う機会を得ました。この方々を含めて36人の学位取得に携わって来られたのが、私の生き甲斐であり誇りです。

地域医療連携講座 教授 足達 寿

心臓・血管内科というと、心臓カテーテル検査、冠動脈拡張術、ペースメーカー植え込み術、植え込み型除細動器など、内科の中でも外科的な要素が強い、華やかなイメージのある科の印象ですが、私のように派手さありませんが、こつこつとデータ収集に励む仕事を行う研究室もあるのです。元々、地味で何事もこつこつと行う性格ですので、今、考えると、この仕事が向いていたと思いますが、自分で希望して入った研究室ではなく、当時の戸嶋裕徳教授からの御指示で入れて頂いた経緯があり、戸嶋教授は私の学生時代の6年間を保証人として見て下さっていたので、私に合う研究室を選んで頂いたのだらうと感謝しています。

どこの疫学研究をされている先生方も大変に苦勞を味わっていると思いますが、私も研究を始めた当初は、大変な思いをしながら仕事をし

ていました。まずは、検診の際の受診率を上げる役目です。農作業などで忙しい検診対象者の家に行き、「今なら空いています」と声をかけて回り、時には、厄介者扱いをされて、すごすごと引き下がったり、新聞の押し売りと間違えられて、ホースで水をかけられそうになったりしました。

検診以外でも、食事調査を行う際に、食生活の実態を正確に把握するため、誤差がもっとも少ないと考えられる方法である「陰膳買い取り法」を行っていました。各家庭にお願いして、家庭でその日につくる食事とまったく同じ「陰膳」を、1セット余分につくってもらいます。それを直接買い取って分析するという方法です。買い取った食事はすべて大きなミキサーに入れて全量をホモジナイズし、そこに含まれている栄養分を生化学的に分析します。研究室で最も若かった私が食事を受け取りに行っていました。朝も昼も夜も「今、ごはんのしたくができました」という電話をいただいたらすぐに、車で田主丸に向かい、食事をタッパに入れて持ち帰り、ミキサーに入れて帰宅するという1日で、当時は、およそ、医師の行う仕事ではないと思っています

した。

さらに、発症、死亡調査が大変でした。手紙を出して生死を確認し、連絡がなければ、自宅を訪ねたり、病院でカルテ閲覧をしたり、電話で家族に病状を確認する時には、「久留米大学の・・・」と言いかけた途端に、ガチャと電話を切られてしまい、寂しい思いを何度もしました。それも、今となっては良き思い出です。皆さんも、様々な苦勞をしながら、研究生活をなさっていると思いますが、私が本編の中で最も強調したかったのが、タイトルに書いた、『こつこつと頑張る姿勢』です。医師は華やかで患者様全員から感謝されるばかりではありません。場合によっては、ミスを責められたり、罵倒されるようなことがあるかも知れません。しかし、こつこつと頑張っている姿は、受け持ち患者様が一番、分かって下さっているし、その御家族や医師仲間もちゃんと見てくれているはずです。ですから、研究生活で体得した『こつこつと頑張る姿勢』を今後の医師としての人生に活かして行って下さい。

最後に皆様の研究生活が実り多きものになれることを陰ながら応援しております。

《事務通信》

◆修士課程第2学年学生の皆様へ◆

学位論文提出と年度末スケジュール

1. 学位論文申請書類と提出期限

〔提出期限：令和3年1月15日（金）17時（時間厳守）までに庶務課学位担当に提出〕

- ① 学位論文審査願 1通
- ② 主論文 4通（印刷公表が望ましい）
- ③ 参考論文 各2通（作成している者のみ）
- ④ 論文目録 1通
- ⑤ 論文要旨 1通
- ⑥ 履歴書 1通
- ⑦ 単位修得証明書 1通（教務課にて準備する）
- ⑧ 写真（4×3cm） 1枚

申請書類については、医学研究科ホームページ (<https://www.kurume-u.ac.jp/site/gmed/>) の書式ダウンロードページより入手して下さい。また、申請書類のうち①～⑥については、下書きを令和3年1月8日(金)17時(時間厳守)までに学位担当に提出し、事前にチェックを受けられるようお願いいたします。

[学位担当：医学部事務部庶務課 服部・與那城 (内線 3014) E-mail :

hattori_keita@kurume-u.ac.jp , yonashiro_miwako@kurume-u.ac.jp]

2. 口述試験〔期間：令和3年2月1日(月)～2月17日(水)〕

*試験日と場所は後日通知する。

3. 最終審査〔令和3年2月24日(水)〕

*合否については令和3年3月1日以降各々指導教授に確認すること。

4. 学位記授与式〔令和3年3月24日(水)11時～〕

*場所：筑水会館2階イベントホール



◆博士課程の皆様へ◆

「研究計画」の策定及び提出依頼について

博士課程の学生を対象に、令和3年2月頃に「研究計画」の書類を送付いたします。これは、久留米大学大学院医学研究科規程第4条及び学位論文指導計画等策定に関する内規に基づき、在学中の計画的な研究と学位論文作成のため、毎年各自の研究計画(テーマ・目的・方法)を指導教授の指導の下で策定いただくものです。期日までに必ず医学部事務部教務課までご提出ください。

◆博士課程第4学年学生の皆様へ◆

学位論文提出の手続きがお済みでない方へ

今年度、学位論文を提出されない方については、令和3年1月下旬を目途に医学部事務部教務課から「在学期間延長・単位修得満期退学希望調査」を実施いたしますので、ご回答をお願いいたします。



医学研究科入学試験について

令和2年10月20日（火）に行われた前期入学試験の結果は下記のとおりです。
後期入学試験については次項のとおり実施します。

合格者	修士課程 18名	博士課程 5名
-----	----------	---------

令和3年度 大学院医学研究科後期入学試験のお知らせ

【試験日程】修士・博士ともに同一

出願受付期間：令和3年1月12日（火）～ 令和3年1月22日（金）必着

試験期日：令和3年2月16日（火）

合格発表：令和3年3月12日（金）午前10時

【試験内容】

*修士課程

医科学専攻<<基礎医学群・社会医学群>>・総合生命科学・バイオ統計学専攻<<総合生命科学群>>・看護学専攻<<修士論文コース・専門職養成コース>>

英語・小論文・面接

総合生命科学・バイオ統計学専攻<<バイオ統計学群>>

英語・面接

*博士課程

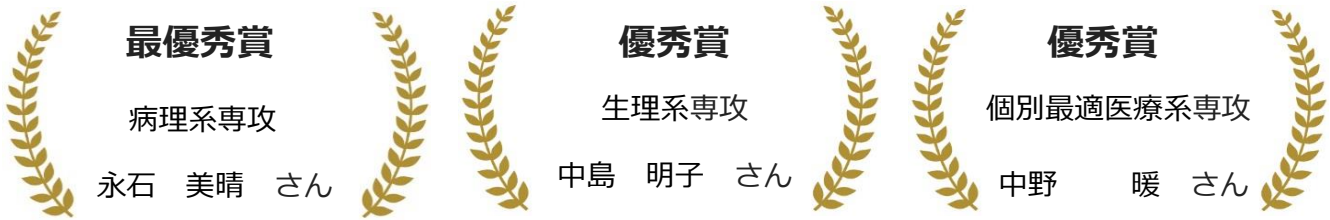
英語・面接



別途、科目等履修生も募集しております。身近な方で、医学研究科に興味・関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご紹介の程どうぞよろしくお願いいたします。

大学院医学研究科 第6回研究発表会について

大学院医学研究科第6回研究発表会が、令和2年12月7日（月）・8（火）に行われました。今年度の特別講演は外科学講座（胃・大腸外科部門）の藤吉健司先生にご講演をいただきました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。博士課程「研究発表」は必修化し単位認定を行っています。また、特に優れた発表を行った以下3名に対し、表彰を行いましたので、併せてご報告いたします。



学生駐車場の募集について

現在大学院に在籍する学生の令和3年度 学生駐車場の申請については、例年2月初旬に受け付けております。当該時期になりましたら、各所属講座や医学研究科ホームページを通じてお知らせしますので、申請を希望される方はご確認をお願いします。

※-----※-----※-----※-----※-----※-----※-----※-----※-----※

編集後記

令和2年も残すところあとわずか。今年は新型コロナウイルスによる影響で大変な年になりましたが、この状況が一日でも早く終息へ向かいますことと、皆様のご健康をお祈りいたします。寒さ厳しき折、どうぞ皆様、ご自愛のうえ、良いお年をお迎えください。令和3年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。（大学院チーム一同）